

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 福岡筑後プラスチックリサイクル推進協議会

上位関連計画にみる地域の将来
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：206,615人、将来：171,833人（2030年）、138,668人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））

②具体的な取組
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。
 ・大学、企業で環境教育や住民ワークショップのマニュアル化を行い、自治体で実践し、住民の行動変容を促進する。
 ・自治体が廃プラスチックの一括回収を行い、回収率を向上させる。
 ・大学で材料リサイクルの技術の確立を行い、企業で製品化を行うとともにプラスチックの地域内循環のための企業ネットワークを確立させる。

①ありたい未来
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください
「住民・行政・事業者が参加することにより、地域還元型の資源循環システムが構築されている地域」
 → ・プラスチック資源が高品質な再生プラスチック製品として地域へ還元され、住民がリサイクルを実感できている。
 ・廃プラスチックが地域内もしくは県内で付加価値生産され、バリューチェーンの構築がなされている。
 ・構成5市町でプラスチックの一括回収や紙おむつの回収に取り組まれており、回収したものが地域内の資源として活用されている。
 ・各市町の地域事情に沿ったバイオマスの利活用など、環境や経済に関する地域内での互いの取り組みが地域内で共有され、経済効果を多く生み出しながら各地の取り組みが発展している。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	廃プラスチック回収量向上	プラスチック回収量	850	935		t
	CO2排出量の削減（廃プラ由来）	CO2排出量（廃プラ由来）	1,636	3,330		t-CO2
		使用済み紙おむつの回収量	5,000			t
	バージン石油使用量の削減	バージン石油使用削減額	2,700	5,000		千円
社会	環境教育 住民ワークショップの実施	ワークショップの実施回数	2			回

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	廃プラスチック回収量向上	プラスチック回収量	850	935	2,035	5,918	t
	CO2排出量の削減	CO2排出量	1,636	3,330	2,030		t-CO2
		使用済み紙おむつの回収量向上	使用済み紙おむつの回収量	5,000		2,030	9500
	バージン石油使用量の削減	バージン石油使用削減額	2,700	5,000	2,035		千円
社会							回

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

・プラスチックリサイクルにより資源が地域内で循環することで、家庭系可燃ごみ排出量とCO2排出量の削減、再生プラスチック製品の生産や再製油の流通による経済効果が期待できる。また、企業が再生品の生産を行うことで、住民にとってプラスチックリサイクルが目に見えるようになり、住民の行動変容へとつながる。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください